

## 第16回越冬(85~86)

(1985年)12月14日、越冬支援連帯集会。

- 国策事業動員阻止!—三里塚二期工事阻止・関西新空港3月着工阻止!
- アオカン差別カリコミ糾弾!—京都駅における差別カリコミ糾弾!
- 天皇・日の丸攻撃を打ち砕け!—佐藤さん虐殺糾弾・西戸組斗争勝利!等々。

12月22日、佐藤さん虐殺1ヶ年糾弾・追悼山谷集会。三角公園から勝利号で現地へ。

25日、越冬突入集会。

佐藤映画監督の遺志をつぎ完成された映画「山谷—やられたらやりかえせ」が上映される。

“映画では腹は膨れないが、敵への憎悪はかきたてることはできる”  
—佐藤満夫。

医療センター前での布団敷き・警備体制が始まる。

28日、センターで労働争議班に神明工業の個室代無断天引きの訴えがあり、手配師をつかまえセンター内で大衆団交。追及の結果、全額返済させる。

29日、南港臨泊受け付け開始。

770人中370人が切り捨てられる。

夜、臨泊押し込み斗争の報告集会の後、炊き出し、公園野営拠点化。

12月29日~1月4日の集中期、公園拠点化路線も2年目となり、初日人パトは⊕(機動隊)に公園を封鎖され出撃不可。

以後、30日、おどり部隊の攪乱戦術が成功、釜中をワッシュイデモ。

1月1日、ミナミ繁華街に転戦、無届けデモとピラ情宣を貫徹、と創意工夫をこらして斗いぬかれ、2日は京都越冬実と共に京都・四条河原町周辺の人パト。

同日、京都の大島病院での差別医療体制によって、アオカン者がろくな治療もせず放置され死亡した事件が報告された。) )

又、集中期の公園では昼間越冬まつりが行なわれた。寸劇「ポパイ、釜ヶ崎編・山谷編」、のど自慢、もちつき大会、ソフトボールなど。

(越冬まつりという言葉はこの頃から使われ始める。若干の異和感をおぼえたものだが……)

学習文化体育班による連続学習会も2回目。

12月16日、越冬斗争史。

17日、労働過程をめぐる課題。

18日、新空港と釜ヶ崎。

19日、狩り込みと保安処分。

20日、韓国のスラムと釜ヶ崎。

1月6日、病院における保安処分の実態、映画「キューポラのある街」。

8日、水国斗争と西戸戦。  
と多方面にわたり学習会が開催された。

1月4日、南港臨泊で仲間が急死。勝利号で南港に急行、民生局役人に死因と責任を追及、後市庁舎前抗議行動、120名の決起。

10日、越冬貫徹勝利集会。

医療班から、3度にわたる市内医療パトロールの報告があり、市内アオカン者が減少している事。それは仕事の出たせいではなく、市庁新設による排除や民警一体となったクリーン作戦の進行であり、5月天皇来阪に向けて、いっそう狩り込みが強化されるだろうとの警告がなされた。

この年は京都、福岡でも越冬斗争が斗われた。

84年12月頃から表面化した京都駅での一連の野宿者人権差別事件から、「日雇労働者の人権と労働を考える会」が出来ていたが、11月11日、釜越冬に先行する形で京都越冬斗争実行委員会が結成された。(部落解放同盟京都府連、東九条地域生活と人権を守る会、日雇労働者の人権を守るキリスト者の会、等々)

12月20~1月10日、京都駅・四条河原町周辺の夜間パト・炊き出しを中心に、生活・労働相談、そして「人民宿泊所」への保護、病院訪問。行政斗争として、中央保護所(釜の自彊館のような更生施設)に対し収容人員の拡大要求と監視活動が斗いぬかれた。

後日、3/8総括集会で、京都アオカン層の特徴として、病弱・「障害」・高齢層が多い実態が報告されている。

福岡では、福日労結成後初の越冬斗争が斗われた。福岡教会を拠点として、博多駅・天神通りでの医療パトと炊き出し。博多駅50名、天神通り30名のアオカン層がいるとのこと。

1986(昭和61)年

- 1月13日 山谷争議団・山岡強一氏、金町一家の手によって射殺される。夜、反撃戦。1000名の暴動的決起、6名不当逮捕。(山谷)
- 1月16日 山岡氏追悼山谷労働者葬。(山谷・玉姫公園)
- 2月11日 建国記念日糾弾!天皇主義右翼・金町一家解体!山谷現地集会。
- 2月17日 86春斗討論集会。

- 最低単価8500円以上
- 交通費全額・朝メシをつけよ
- 飯場くいぬき7500円以上、飯代一式1600円以下とせよ！  
など決まる。

- 3月1日、ほとんどの業者が賃上げ決定。
- 2月 この頃から、映画「山谷ーやられたらやりかえせ」（監督は山岡氏）関西上映実により、上映会運動始まる。
- 3月29～30日 「釜ヶ崎差別と闘う連絡会」（金井愛明代表）と「日本解放社会学会」（江島修会長）による現地調査。  
野宿者からの聞き取りを実施。
- 6月7日 社会福祉法人「大阪自彊館」の選挙応援の実態が報道される。  
“福祉予算をとるため、自民候補応援に職員派遣”
- 7月31日 加藤組（西宮）の親父の暴力事件をセンターで糾弾。
- 8月8日 山根興業の暴力事件、センターで追及。
- 8月12～15日 第15回釜ヶ崎夏祭り。  
○河内屋菊水丸、青春だいなしバンド  
○パネル 山谷斗争、生活センター、琵琶湖問題、新空港、白保斗争など  
○李礼仙のひとりうた  
○地域の指紋押捺拒否を闘うグループの寸劇「ポパイ」
- 10月9日 市更相のケースワーカー（社会福祉主事）が無資格の上、入院患者の生活扶助費を着服し、更に木島（精神）病院から金をもらい、患者送り込みの便宜を計っていた事実が報道される。
- 10月14日 四天王寺で野宿者襲撃、報道される。  
エアガンで少年3人組がアオカン者の顔などをうつ。後日、高校生ら2名逮捕される。
- 10月25日 アオカン者差別襲撃糾弾・アブレ野垂れ死攻撃粉碎！決起集会。  
同日 木島精神病院（貝塚）への抗議行動。
- 11月15日 第4回全協大会。（東京）
- 11月20日 反外登法運動に全協部隊参加。  
都庁で5名逮捕される。内1名は山谷で闘っている釜の仲間。

## 第17回越冬（86～87）

（1986年）12月13日、越冬斗争支援連帯集会。

アブレ・アオカン差別・虐殺を打ち砕け！ 山谷斗争勝利・天皇主義右翼を寄せ場から一掃せよ！ などスローガン採択。

12月14日、越冬支援・山谷斗争連帯！ 「山谷ーやられたらやりかえせ」上映会。（大阪府教育会館）

講演、平井正治氏「釜ヶ崎の歴史と下層労働者」。

発言、山谷争議団、釜日労・争議団。

この年、関西上映実によって上映運動が展開されたが、映画のナレーション問題も表面化した。

12月25日、越冬突入集会400名。終了後、医療センター前で布団敷き。

翌日より医療班による机出し・医療相談・医療券の発行。相談に来た労働者はセンター病院で受診の後、市更相行きとなるが、時には救急車、依頼入院の場合もある。

26日、越冬実、大阪市との交渉。

○市内・釜のアオカン者2千名を臨泊に入れろ！

○各区役所で仲間の受け付けをやれ！

○臨泊受け付け時における規制をやめろ！ 警察・ガードマンの規制をやめろ！

等の要求を突きつけたが、窓口広聴課、民生局、環保局の役人は居直りを決めこむ。

26～27日、この年医療班のガンバリが目立つ。

南区役所福祉事務所との交渉では区内アオカン者の入院（3名）、自彊館（2名）、単泊券（5名）を勝ちとる。北区役所では、入院（8名）、自彊館（2名）、法外援護（交通費など、3名）を勝ちとるも3名が却下された。

26日朝、労働班による人夫出し神明工業の条件違反追及がおこなわれた。

内容は、

単価を勝手に引き下げるな！ 個室代（500円）・風呂代（200円）を引くな！ 名古屋出張は交通費を払え！

の3点。

翌日オヤジの“改善します”との確約書をかちとり、40名以上が交通費の支払いを申し出た。

27日、釜日労・権政河氏の指紋押捺拒否による不当逮捕糾弾の名古屋集会。

釜日労越冬拠点、おけら公園（名古屋駅近く）で開かれ、大阪からは釜日労、学生実、プーの会などが参加。

29～30日、南港臨泊（自彊館を含む）の受け付け。

“押し込み”斗争の結果950名の入所を獲得。

年明けて87年。

1月1日、三角公園でのどじまん大会。

2日、もちつき大会、青春だいなしバンドの演奏。夜ポリビア映画「ただひひとつの拳のごとく」上映。

3日、スポーツ大会。

同日夜、人パト隊（約300名）は梅田方面に進撃。

大阪駅周辺の青カン仲間への人パト、駅手配師・シノギの牽制を目的とする整然とした行動であったが、曾根崎署は、道交法違反、市公安条例違反により10名（釜日労委員長含む）を逮捕するという不当弾圧を行った。

翌日、ソフトボール大会を中止して、勝利号で曾根崎署糾弾行動。

5日、越冬対策しめつけ糾弾対市抗議デモ。

三角公園→銀座通り→堺筋北上→市庁舎へ。120名参加。

8日、梅田人パトの件で7ヶ所ガサ入れ。

12日、拘留されている8名の拘留理由開示公判。

13日、手帳金融関西実業糾弾斗争。

沖縄の仲間2名にケガを負わせた業者に謝罪と休業補償をさせる。

14日、越冬報告・山谷斗争決起集会。夜、三角公園からバスで上京。

15日、山岡さん虐殺1ヶ年・佐藤さん虐殺2ヶ年弾劾追悼山谷集会。

16日、1/3梅田人パト逮捕者全員釈放される。

この年の越年は、最後の布団敷き（11日夜）終了後も人パトが続行され、逮捕者釈放をもって一応の幕を閉じる。

なお期間中、去年に引き続いて連続学習会も行なわれた。

- 反弾圧学習会
- 寄せ場からの国際連帯
- 労働・医療・労災
- 日本国粋会・金町戦
- 新空港と釜ヶ崎

京都では、12/2～1/11、第2回京都越冬。

## 1987（昭和62）年

1月15日 佐藤さん虐殺2ヶ年弾劾・山岡さん虐殺1ヶ年弾劾・追悼・現地集会。

玉姫公園550名参加。

1月23日 三栄工業（四日市）との労働争議。

鹿島建設の下請・角田建設の下の人夫出で、労災もみ消し「示談金」ネコババの上に、治療中の労働者を半強制的に雑用仕事をさせた悪質な飯場である。

笹日労と合流、団交により休業補償・労災手続を確約させた。

1月31日

関西新空港起工式抗議行動。

空港反対住民連絡会主催の集会（岸和田）の後、現地事務所へデモ。

2月3日

労働・人権差別を考える関西反弾圧連帯集会。（天満駅・大阪国労会館）

昨年、堺植樹祭・天皇来阪反対斗争での逮捕者（釜日労1名、山谷争議団1名）に対する弾圧・裁判を糾弾、反天皇制斗争を訴える。

2月4日

飯場でのリンチ殺人摘発される。

加藤組（西宮）経営者ら3名逮捕。契約の労働者が無断欠勤した事でリンチ、死亡させた。

同日

天王寺公園南側歩道の路上生活者（約25名）が追い立てられる。釜日労、医療連、キリスト教協友会、水曜パトロールメンバーなど抗議行動を行なう。翌日、市土木局に抗議。

2月12日

87春斗始まる。

2月13日

明輝建設（京都）のボッタクリ、86年春斗条件違反を糾弾、改善を確約させ、飯場代を返還させる。

2月25日

全業者へ要求書提出。

○最低単価9000円以上

○飯場代 1800円以内

3月中旬、ほぼ全業者が賃上げ。

3月

関西新空港建設着工。

3月27日

沖縄日雇労働組合（準）による映画と討論の集い。

○沖縄一寄せ場を結ぶ沖縄労働者の会をつくろう

○「沖縄戦・未来への証言」上映

4月5日

日本寄せ場学会設立大会。

運営委員長・池田浩京大助教授。

4月10日

元釜共斗メンバー小川氏自殺。

釜共斗解体後は日中友好運動に参加、80、81年の就労申告書廃止反対斗争では起訴されている。

- 4月15日 悪質精神病院・木島病院（貝塚市）糾弾斗争報告集会。  
釜日労、医療連。
- 5月1日 第18回釜ヶ崎メーデー。  
“寄せ場の右翼的再編と対決する日雇い下層の強固な隊列を構築せよ！”
- 5月8日 医療連による医療・生活相談開始。
- 6月2日 釜日労事務所前喫茶店「ぶん」の息子の暴力事件（5.7）に関しガサ入れ、副委員長ら4名逮捕さる。
- 6月15日 仕事よこせ！対府庁デモ、80名参加。  
仕事要求署名2400名を越える。19日より府庁前でハンスト突入。
- 6月28日 全協結成5周年総決起集会。（山谷・玉姫公園）
- 6月30日 市内野宿者急増。  
木曜夜まわりの会（キリスト教関係者ら）が確認しただけで941名。推計で2000人以上がアオカンしているとみられる。
- 8月1日 天王寺博開催。  
以後、公園有料化検討される。
- 8月5日 ソーメン代、12000円支給。
- 8月12～15日 第16回釜ヶ崎夏祭り。  
“どっこい寄せ場は生きている”  
○映画「タックルセー・沖縄斗争の記録」  
○おどり、土方一代  
○エイサー（沖縄のおどり）  
○「山谷ーやられたらやりかえせ」上映。キャラバン隊結団式行なわれる。
- 9月27日 “今こそ斗いを！ぶつつぶせ新空港”全国集会。（泉南市）
- 10月3～4日 医療連セミナー・大失業時代と寄せ場。  
医療連主催。
- 11月15日 センター開設以来最高の求人数を記録する。  
1日5400人。梅雨時の落ち込みから一転好況、人手不足へとめまぐるしく変化。
- 11月22日 緊急山谷現地集会。  
金町新拠点粉碎斗争。
- 12月1日 泉州の札付き暴力飯場、大久組に押しかける。  
オヤジに暴力を謝罪させるなど全面勝利。

## 第18回越冬（87～88）

11月28～29日、モチ代（冬期福利厚生資金・この年12600円）支給時に越冬資金カンパ実施。約100万円集る。

今年は仕事が多い。関西新空港、京阪奈学研都市など大型公共事業が出ている。11月にはセンター開設以来の最高人数を記録。圧倒的な好景気の中での越冬斗争となる。

12月12日、越冬斗争支援連帯集会。

“野宿・野垂れ死・差別攻撃と対決し、階級的労働運動の前進を勝ちとれ！”

をスローガンとし、以下5項目の重点課題が確認された。

- ①冬期アブレ・野宿から犠牲者を出すな！
- ②悪質「業者」と対決し、現場・飯場斗争の復権をかちとれ！
- ③仕事保障を中心とする高齢者対策をかちとれ！
- ④権力の弾圧・右翼ヤクザの敵対を打ち破り、山谷斗争と連動する労働者の実力斗争を強化させる。
- ⑤関西新空港など反動的国策事業への動員と対決し、「労務報国会」攻撃を打ち破る労働者の政治的団結の強化をかちとる。

25日、越冬突入集会。

映画「87年夏・韓国民衆抗争」「74-75越冬・テント村斗争」上映。

26日、人夫出し福本組（初島）にバスでおしかける。

走行中、求人車両から投げ出され、怪我した仲間にわずかな金で示談を強要したオヤジに全面保障を確約させた。

29～30日、市更相にて臨時宿泊所の受け付け。

今年度は南港1000人、自置館200人の枠。連日の越冬実の“押し込み”斗争にもかかわらず、入所は757人、希望者の内約200人を切り捨てている。施設に余裕があっても積極的に労働者を選別し、切り捨てていく傾向が定着している。我々が差別行政と呼ぶゆえんである。その結果、釜地区内400名、日本橋150名など正月期にアオカンを強いられる事となった。

29日夜、集中期、三角公園での野営に入る。

今回の人パトは、釜地区、日本橋、天王寺、四天王寺等、班別行動となる。

1月1日～3日、越冬まつり。

1日のど自慢、卓球大会。2日もちつき。3日ソフトボール、映画「ゆんたんざ沖縄」。

4日、大阪市抗議デモ（お礼まいりともいわれる）。130名の参加。

7日、越冬学習会「88年の釜ヶ崎・仕事・行政・新空港」。  
 泉州沖に新空港をつくらせない住民連絡会と沖日労の報告。  
 (1月1日より第1回沖繩越冬開始との事)  
 8日、学習会、釜ヶ崎ケタオチ病院バクロ集會。  
 11日、越冬終了。

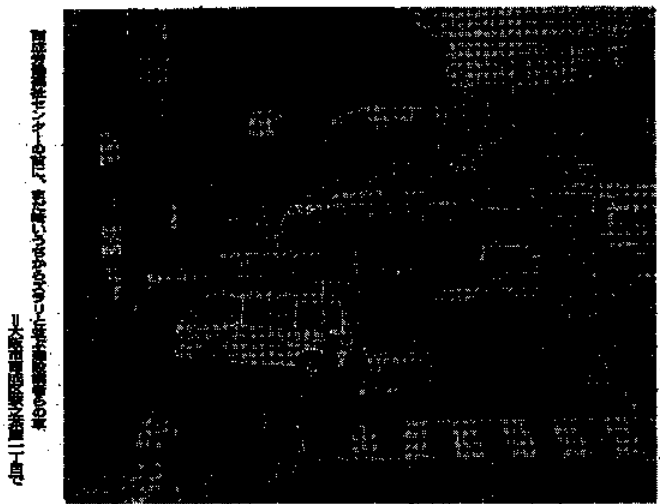
今越冬の特徴として上げられる事は、

- ①医療パト(人パト含む)領域の拡大で天王寺、四天王寺、難波、日本橋、梅田等。又昨年に引きつづき医療班によって、北・南・浪速区の各福祉事務所への交渉も行なわれた。
- ②大阪(矢田)・奈良・京都で部落解放を闘う仲間、地域の子ども等、女性労働者などの組織的参加が増えた事などである。

全体として好況下の越冬という事もあって、可もなし不可もなしで終わったが、内部的には、釜労働者の部落差別発言があり、部落解放同盟奈良県青年部に、釜の差別問題への取り組みの不十分さが指摘された。

又“えっとう学生版”には、釜の労働者の女性差別発言に『支援男性が笑いでごまかしたこと』が悲しいという、女性支援からの告発が取り上げられている。“学生版”では何ひとつ結論めいたものは出ていないが、日刊えっとう第9号にのっている、女性労働者のアピールを読むと、考えさせられるものがある。支援女性の意識と、釜労働者の(大半が独身)女性親とはあまりにへだたりがあるのではないかと思われてなりません。ともあれ、この年以降、女性問題が、越冬に登場する(こういう言い方は不謹慎かな)事になる。

なお京都では3回目の京都越冬が斗われた。



あいらん 生活

1987年冬(11月28日 朝日(夕))

1988(昭和63)年

- 1月31日 福岡日雇労働組合結成大会。(福岡築港) 全協支部博多の誕生。
- 2月10日 88春斗開始。賃金調査始まる。
- 3月1日 春斗要求、最低単価9500円以上、飯場代1800円以下。ほぼ実現。
- 3月10日 1986年、堺植樹祭での逮捕者に対し、無罪判決がおりる。
- 3月16日 高橋興業(宇治)の暴力事件発覚。飯場団交で謝罪、休業補償をかちとる。
- 5月1日 第19回釜ヶ崎メーデー。“全民労連と対決し、闘うメーデーの復権をかちとれ” 三角公園から大阪城公園へ。
- 6月9日 京都五条署内での日雇労働者の自殺が報道される。大阪住吉区の半ダコからトンコ、五条署に保護を求めたが、長時間相手にされず、果物ナイフで自殺。
- 6月19日 アジアン・フレンズ発足。アジアの出稼ぎ労働者の救援組織。(旅路の里)
- 6月24日 人夫出し、本組興業(尼崎)の労災金ネコババ、労災もみ消し事件追及始まる。
- 6月27日 労災もみ消し事件について、鴻池組(元請)・横内工業(下請)・本組興業と大衆団交。三者から全面謝罪をかちとる。
- 同日 手帳金融業者、坂部土建社長を出資金法違反で取り調べ、白手帳2000通を押収。
- 7月10日 全協第5回大会。(東京)
- 7月17日 渥美興産の飯場兼宿舍建設(南津守予定地)に反対する集会有り、チラシ・ピラの中に釜ヶ崎労働者に対する差別・偏見があった事が明らかになった。集會主催者は、南津守社会福祉協議会と南津守を守る会。以後、「南津守住民運動の釜ヶ崎差別と闘う共闘會議」が結成され、糾弾斗争がつづく。
- 8月1日 南津守住民運動の釜ヶ崎差別をめぐって西成区と交渉。
- 8月10日 南津守問題・報告集會。(西成市民館)
- 8月12~15日 第17回釜ヶ崎夏祭り。“あらゆる差別と闘う仲間の団結を” 映画「ジャコ万と鉄」のど自慢、エイサー、つな引き、すもう大会、すいか割りなど パネル 南津守問題など

12月3~4日、モチ代カンパ約94万円集まる。

17日、越冬支援連帯集会。

「天皇Xデーと好況を利用した寄せ場支配の強化を喰い破れ!」。前回に引き続き好況下の越冬という事になったが、天皇Xデー(天皇の死とそれを利用した政治弾圧)に向けた寄せ場の取り組みが提起された事、増加しているアジア人出稼ぎ労働者との連帯を訴えている事などが特徴。

又、具体的獲得目標として、

- ①好況を理由にした臨泊削減、アオカン・病弱者層の切り捨てを許さない民生行政斗争。
  - ②現役層とアオカン層の分断の打破。
  - ③労働行政反動化を突破する職安斗争。
  - ④南津守斗争の継続、大衆化。
  - ⑤Xデー攻撃のバクロ、反天皇制斗争の浸透を計る。
- などがあげられ、「夜の越冬から昼の越冬への重点移行」という言葉で集約される。

22日、第1回越冬学習会。「部落差別と寄せ場」。

25日、越冬突入集会。

「予言」「国家機密法」上映。終了後、医療センターに移動、布団敷き、医療パト開始。

26日、昼間は、禁酒を考える会と釜ビデオ研の主催による連続映面上映会。

「羅生門」等5本。

夜は学習会、「労災保険法の改悪と釜の職安・労働問題」

27日、臨泊削減反対市抗議デモ。

28~29日、臨泊受け付け。

朝から467名が市更相前に並んだが、一次125名が却下(理由は主に飲酒)。残り342名中南港臨泊286名、入院入寮等20名、却下36名。一次・二次ともに却下理由の第一は飲酒であるが、アオカンの寒さをしのぐために飲む酒を理由に却下されてはたまらない。2日間で約千名の仲間が並んだが、約半数の503名が入所、すでに事前狩り込みで入っている自彊館200名で、全体で約700名の入所である。表をみると一目瞭然、行革・好況を理由に毎年切り捨てを強化しているのだ。ただし表には入所希望者数は載っていないので、その内の何割が切り捨てられたのかは不明。

(すいか割りについて、解放同盟奈良県連から、視覚障害者差別につながるのではという指摘があったが、実施された)

8月22日 南津守問題で西成区と2回目の交渉。

区は、差別を助長するものであると認める。

9月25日 南津守住民運動の釜ヶ崎差別を許さない9.25報告集会。(梅南・橋集会所)

釜日労、キリスト教協友会、夜間学校、日本寄せ場学会、木曜夜まわりの会、釜ヶ崎越冬斗争を支援する会、釜ヶ崎に連帯する関西学生実、共同作業所「ポッポ」、北津守学童保育所「芽」、「わてらと釜ヶ崎」など多数が参加。

10月9日 天皇の死=Xデー・京都国体を利用した天皇制強化を許さない全国集会。(京都・円山公園)

11月3日 天皇戒厳体制を打ち破れ!山谷集会。

12月17日 日本寄せ場学会による野宿者調査まとまる。

野宿者の大半が、ヨセヤ、日雇いなど働いている事、少年らによる暴行を半数近くが経験している事などが明らかになった。

1988年冬(12月18日 朝日)



アヤセ  
1986.冬

釜ヶ崎  
寄せ場

### 年齢制限に怒り

釜ヶ崎の寄せ場には、年齢制限が設けられており、40歳以上の高齢者は入所できない。この制限に怒りを覚える高齢者が多く、彼らは「釜ヶ崎は高齢者の居場所だ」と主張している。また、若年層の増加も問題視されている。寄せ場の運営は、高齢者の生活を支えるだけでなく、若者の自立支援も行う必要があると、関係者は訴えている。

釜ヶ崎の寄せ場には、年齢制限が設けられており、40歳以上の高齢者は入所できない。この制限に怒りを覚える高齢者が多く、彼らは「釜ヶ崎は高齢者の居場所だ」と主張している。また、若年層の増加も問題視されている。寄せ場の運営は、高齢者の生活を支えるだけでなく、若者の自立支援も行う必要があると、関係者は訴えている。



	計 画 数	受 入 数	%
81~82	2000	1982	99
82~83	1400	1386	99
83~84	"	888	63
84~85	"	918	66
85~86	1300	945	72
86~87	"	948	73
87~88	"	758	58

12月31日、三角公園野営地から人バト難波へ。

1月1日、人バト天王寺、1月2日梅田。

越冬まつり、1~3日。

映画「男はつらいよ」「自転車泥棒」「鳩と車イス」（この映画は差別を助長するとの指摘があり、議論となる）。

のど自慢、もちつき、ソフトボール等々。

4日、大阪市抗議デモ“お礼まいり”。

6日、学習会「世間の道理と釜ヶ崎」、講師は日本寄せ場学会より。

同日、神明工業の手配師の暴力と、社長によるもみ消し工作が発覚、センターでの手配師追及から労働争議開始。

9日、団交で謝罪を勝ちとり、補償を確約させた。

7日、昭和天皇死亡。

8時45分に現場が中止となり1500円で返された仲間もいた。

8日、戦争と差別の元凶=天皇制はいらん西成パレード。

参加者1000名、三角公園。昨年9月頃より、Xデー反天皇制運動を展開していたが、タイミングよく、越冬中に天皇が死亡。関西の反天皇斗争は釜ヶ崎からという声も聞こえる程。

9日、釜ヶ崎ビデオ研、禁酒を考える会による連続ビデオ上映。

「天国の駅」など。

夜、学習会「これでも医療か！福祉か！」。

10日、学習会「アジア人出稼ぎ労働者とわしら」。

アジアフレンドの仲間から問題提起があり、

①アジアに仕事がないから日本へくる。

②円高、日本の1日分が1ヶ月分の賃金となる。

③アジアの人々の仕事を奪ったのは日本の大企業である。

などの出稼ぎ事情が説明された。参加者からは、現実に飯場などで仕事

を奪われているという声や、今は好景気だから良いが、不況になると低賃金でも働く外国人労働者に仕事を取られるのではないかという不安が語られた。

11日、1.15山谷へ、89年春斗へを訴えて、越冬終了。

日刊えっとう1/6号には、高松炊き出しの会からの報告が寄せられている。高松駅周辺で、12/30~1/3まで“弁当出し”と野宿者の現状調査を行なったとの事。

1989（昭和64、平成元年）年

1月7日 昭和天皇死去。

1月8日 天皇はいらん西成パレード。

三角公園から難波まで、約千人参加。

「天皇制の強化を許さない西成区民の会」主催。

2月1日 釜ヶ崎労働者の平均年齢49才と府発表。

2月13日 府労働部による就労実態調査

2月15日 東淀川区で中学生6人がエアガンで野宿者を襲う。

2月24日 天皇の葬式「大喪の礼」の日、センターは平常通り。

「大喪の礼」反対でも決行。三角公園からセンターへ、後、反天皇御堂筋パレードへ合流。

3月20日 現金求人8319人と最高求人記録を更新。

3月24日 越冬実・医療班の呼びかけで民生局交渉。

1月9日、越冬中に救急車を呼んだにもかかわらず、労働者が拒否、翌日死亡。救急隊員の横柄な態度が問題となる。

4月14日 89春斗、満額回答を獲得。現金10500円となる。

4月21日 宝塚市の排水管工事で、韓国人出稼ぎ労働者2名死亡。

4月28日 西成署による差別暴行事件発生。

事件の目撃者が西成署で状況を説明しようとしたら、「アル中め、生意気いな」と暴行される。5月9日、損害賠償を訴える。被害者は「釜ヶ崎差別と闘う連絡会議」代表の西岡氏。

5月1日 第19回釜ヶ崎メーデー。

同日、西成署に暴行事件の抗議。

5月11日 「4.21 宝塚市2名生きうめ労災死」事件糾弾！釜ヶ崎決起集会。

5月12日 宝塚市への抗議要求斗争。





は変わらず、又アジア人出稼ぎが急増、賃金をまともに払わない企業もある……など四国北東地域労働組合より。

夜、人バト帰還時に3名不当逮捕されるも翌日パイ。

1月1日、ポリの暴力、機動隊による隊列分断にもひるむ事なく、連日人バト貫徹。

2日、団結もちつき大会、大いにもり上がる。

4日、大阪市抗議デモ。

“臨泊不当却下・差別暴行・面会拒否・殺人行政＝大阪市・民生局を許すな！”

6日、武山建設（南初島）争議始まる。

武山のオヤジは残業代を請求しに飯場に行った2名の労働者をナイフで刺し、重傷を負わせたのだ！（傷害で起訴・略式20万罰金でパイ）

同日、医療班による病院集中面会。

朝日テレビによる三角公園からの現場中継もあった。

8日、学習会「労災、雇用保険しめつけと斗おう！」

10日、武山争議で大衆団交。

事実確認と、オヤジ（社長）の謝罪文をかちとる。

11日、朝センターでオヤジに謝罪させる。

この日医療センター撤収。越冬自体は終るが、この夜から協友会による夜回りが始まる。（2月末まで）

12日、武山争議大衆団交。

飯場の経営改善と労働条件向上などを確約させる。

さて、19回越冬時には学生実などで女性差別が問題になっていたが、20回越冬でも差別問題などが続出した。

○人バト隊列から車イスの仲間を排除する発言が生じた事。

○女性支援のアピールに「さっさとやめてポルノ映画でもやれ」というヤジがとんだ事と、その時の対応。

○医療班に参加した女性に対する暴行未遂事件。

○公園使用許可問題をめぐって沖日労の自主的斗争を阻害する結果をもたらした事。

長くなるのでここでは事実経過、討議などは紹介しない。前述の3点以外にも夏祭り中の女性差別発言などもあり、あわせて長い討論となる。1990年8月をすぎても結論は出ず。

### 第21回越冬斗争報告集にむけて

はやく書きあげて飯場に行こうと思っていましたが、終った今ではすでに借金経済になっていました。

20回越冬以降、女性差別問題はずっと継続討議という事で、92年になった今でも何ら結論めいたものはでていないと思います。だせないのならば、せめてどんな差別事件があったのか、きちんとあとあとまで伝えて行くことが大切ではないかと思います。個人的には、現時点では女性差別問題に積極的にかかわっていかうとは思っていません。

中枢神経に針の一本でも打って、性欲や、恋愛感情や、嫉妬心、独占欲等が一切消えてしまえば最高だ、あとは酒とバクチ専門でいける！ などとアホなことを思っているしだい。

### 1990年

1月15日 日雇全協総決起集会。（山谷）

“佐藤さん・山岡さん虐殺弾劾！”

“天皇「即位・大嘗祭」粉碎！”

“労働者福祉会館（山谷）完成へ！”

1月28日 西成区南津守のマンションで手抜き工事による労災事故。

釜ヶ崎労働者ら3名死亡。

2.9 追悼集会を行なうと共に元請「カイザ」の責任追及にとりくむ。

2月12日 三里塚横堀団結小屋防衛・現地集会に参加。

2月21日 90年春斗要求書提出。

○現金最低単価11500円以上とせよ！

○交通費実費支給せよ！

○契約・最低単価11500円以上、喰い抜き9500円以上、飯場代2200円以下とせよ！

など。

関西にも出稼ぎが増えた事から、

○外国人出稼ぎ労働者に対しても賃金・条件面で差別を行なわな

い事

という一項ももりこまれる。

- 3月 90年春斗は好況の年という事もあって、ほぼ全業者が最低単価要求をのみ、3月初めには春斗終了。(詳しい資料なし)
- 1月～3月 地域の仲間と共に「アジアスワニー労組に連帯する西成区民の会」を結成。  
香川現地、スワニー本社斗争を闘う。
- 4月14日 「寄せ場」と沖縄を結ぶ沖縄労働者の会の主催によるソフトボール大会。(津守公園)
- 4月15日 関西新空港現地集会へ結集。
- 5月1日 第21回釜ヶ崎メーデー。  
○“天皇賛美・侵略の先兵・日雇切り捨ての労働運動の右翼的統一＝「連合」メーデーと対決せよ！”  
○アジアの仲間・被差別大衆と連帯し、階級的労働運動の前進を闘いとれ！  
○天皇即位式典一大嘗祭を粉碎せよ！  
○在日韓国・朝鮮人・中国人と連帯し外登法撤廃を闘いとう！  
(前段に連合幹部が釜日労事務所に来て、「メーデーに参加するなら連合批判はしないでくれ」と申し入れがあったが、大阪城公園では、100名以上の仲間が連合批判をやりぬく。)
- 5月20日 釜日労、組合大会。(芦原橋・部落解放センター)  
90年の闘いとして  
○春斗  
○南津守労災事故斗争  
○21回釜メーデー  
○アジアスワニー連帯斗争  
など総括  
組合方針として  
○労災・労災もみけし悪質「業者」暴力手配師一掃  
○在日韓国・朝鮮人・沖縄・アジアの仲間と共に闘える組合をつくらう  
○他寄せ場の仲間との団結を強め、山谷での金町戦を強化しよう  
○天皇・即位式「大嘗祭」と闘おう  
など採択される。
- 6月1日 この頃より、白手帳更新時に顔写真貼付開始。
- 6月13日 人バト開始。  
シノギの横行、野宿者へのポリによる強制排除、身元調査に対応するため、週1回予定。

- 6月24日 第7回日雇全協大会。(大阪・矢田部落解放会館)
- 7月 職安による手帳しめつけに反対する闘い始まる。
- 7月28日 ソーメン代(夏期福利厚生資金)支給される。12600円
- 8月12～15日 第19回夏祭り。  
“さわいで世の中ぬりかえよう、踊って暑さぶつとばそう”  
○12日 前夜祭。映画「カンカラさんしん」  
○13日 川口さんの歌、伊藤さんのギター  
○14日 新谷のリ子さんの歌。田村、田中、猿橋氏の歌  
○15日 だいなしバンドのロック。一条さゆりさんの舞踏。  
沖縄太鼓(ガジュマルの会)  
その他、のど自慢、スイカ割、つな引き、すもう大会、盆踊り、花火大会など一連の行事。  
なお、パネル展福島菊次郎写真展「天皇の戦争責任を問う」の中に「狂気のさた…」と書かれた作品があった事。組合員から「よそ者とフーテンばかりや(だから早く終わろう)」発言した事が問題となる。
- 9月10日 組合員1名逮捕される。  
白手帳に顔写真を貼付することに反対、自ら拒否してきた仲間、7月18日職安16番窓口での闘いに対し、職安職員への「公務執行妨害・傷害」をデッチ上げた弾圧。13日釈放。
- 10月1日 国勢調査。  
前夜、野宿者に対し、写真・指紋の強要は人権侵害であると情宣。(釜日労と医療連)
- 10月2日 西成署の暴力団担当の現職刑事(巡査長)が山口組系暴力団幹部から多額の現金を受け取り、見返りに捜査情報を流していた事が発覚。  
夕方より西成署前に労働者が集まり、約20年ぶりの本格的暴動となる。約800人の労働者が西成署に投石、自動車を集めてバリケード化、放火して、「署長を出せ」などと抗議。  
当日、公妨などで11人逮捕される。
- 10月3日 早朝から西成署前に労働者が結集。  
機動隊の弾圧に対し、投石、自転車に放火するなどして反撃。
- 10月4日 朝刊に収賄で巡査長ら逮捕が報道される。  
刑事課捜査四係芳賀(芳賀)巡査長の数百万円の現金受け取りが明らかになり、贈賄容疑で山口組赤井組組長赤井克己と是木組幹部渡辺清次が逮捕される。  
この夜も西成署に投石、駐車中の車に放火して抗議。午後7時には阪堺線が一時不通となる。

- 10月5日 4日の夜から、暴動は尼平線にまで拡大。午前0時半頃、阪堺線南霞町駅が放火され全焼。花園北のスーパーがおそわれ、略奪、放火される。5日未明まで16人が逮捕される。昼間、釜ヶ崎地域合同労組、続いて釜日労が西成署前で抗議行動を行なう。釜日労委員長ら3名が逮捕される。
- 10月6日 夜、銀座通りのドヤから、群集にむけてビンが投げられた事から暴動のほこ先がドヤに集中。ドヤ数軒が放火され、ドヤなどの前の自動販売機が次々と壊された。
- 10月7日 マスコミで「西成騒動」と報じられた今回の暴動は7日朝にほぼ収束する。西成署糾弾暴動は5日間で幕を閉じる。暴動の途中から若者、暴走族(?)の参加が目立ち、マスコミが様々な角度から「暴動に参加する若者」を取り上げた。暴動を積極的に斗った仲間の中でも、「彼らも仲間」と「野宿者に石を投げるのと同じ心理、“スカッとしたい”はいつ野宿者に向けられるかも知れない」と評価が分かれた。又、暴動の最中も暴力団によるとばくが行なわれていた事も報道されている。
- 10月13日 西成署糾弾、不当弾圧粉碎、総決起集会。(三角公園)
- 10月18日 10.2 釜ヶ崎救援会結成。暴動時の逮捕者のうち8名が今なお拘束されたまま、起訴拘留者への救援資金カンパを訴える。
- 10月31日 反天皇全国キャラバン釜ヶ崎交流集会。(西成市民館)
- 11月11日 即位一大嘗祭粉碎、釜ヶ崎決起集会。(三角公園) 12日は、山谷現地集会から全国集会(代々木公園)へ。関西集会は三角公園から難波デモへ。
- 12月13日 釜労働者の死亡事件で大和中央病院を提訴。(詳細は後述)
- 12月24日 釜で相互扶助運動などを行っていた元釜赤軍、若宮氏がペルーで殺害される。(詳細は不明)

第20回越冬までをまとめて『越冬小史』として出す予定でしたが、諸事情により無駄に時間が過ぎてしまった。21~23回までを付け加えることとする。

## 第21回越冬(90~91)

(1990年)12月1~2日、モチ代支給、14300円。

越冬カンパ約83万円集まる。

12月15日、越冬斗争支援連帯集会。

“差別・野垂れ死攻撃から仲間の命を守りぬこう！ 10月暴動決起を引き継ぎ、寄せ場の右翼的再編と天皇性支配を打ち破ろう！”

基調報告の中で注目すべきは、前回越冬中の女性差別「事件」、特に1月5日の釜労働者の支援女性に対する強姦未遂事件についての記述である。

『釜日労としていまだ総括討論中であり、“女性差別”を「事件」としていっぺんの「誤りと問題点の整理」の「総括文章」と称するものをもって……(居直る事は許されない)』

とし、又、『同じく越冬中の沖縄差別や、19回夏祭り(1990)での差別侮辱発言などが問われ続けている事もあわせて、自らの運動の根本的な問題である』と表明している。

同時に12月15日の日付で第20回の釜ヶ崎越冬斗争総括会議報告集が出ている。約1年に渡って1月5日の女性差別「事件」、沖縄差別の総括にかかわった諸個人のそれぞれの到達点をまとめたものだが、その中でも、

「第20回越冬・越冬実に関われた課題は女性差別と沖縄差別という“反差別共同斗争”の質を鋭く問うものであった。しかしながら討論は活発化しつつも総括を出せない運動実体が浮きぼりにされ、非常に残念なことではあるが本質的な総括がされないまま、第20回越冬実は解散し、21回越冬を迎えざるを得ないという厳しい状況に立たされている」とあり、問題の根の深さを感じさせる。同時に、支援男性(学生)や釜の活動家(男性)が内なる女性差別意識とどう向き合うかというような論議は、そのこと自体を自己目的化してしまう危険性がある。釜ヶ崎解放斗争をどの様にして一歩進めて行くのかという具体的課題に引きつけた論議が必要なのではないかという感想をもった。

(こういう第三者的な言い方はおかしい、お前の立場はどうなんだという批判があるとは思うけれども、ここではあえて私見は述べない)

19日、越冬前段の労働争議として始まった、大阪駅手配の半タコ飯場、タマキ建設(奈良・橿原市)の労災補償ネコババ事件は、この日2回目の大衆団交となった。

最初の大衆団交においては、12月6日、元請・藤一建設、下請・芦達建設、施主・奈良県桜井市水道局の各責任者を、労災現場であるところの水道局内にある会議室に引きづり出し、タマキのオヤジの労災休業補償金192万円の使い込み、ネコババを追及。2回目西成市民館の大衆団

交へと引きつがれ、横領金の全額返済と、元請・下請の謝罪と飯場体質改善を確約させ、争議は終る。

25日、越冬突入集会。

映画「沖縄線・未来への証言」上映。約300名の参加。

26日、朝8時30分より医療センター前で医療相談開始。越冬実医療班と釜医療連。

午前中三角公園では、子どももちつき大会。

午後、西成市民館で反彈圧集会。

同じく市民館で夜、大和中央病院抗議集会。

27日、10月暴動で起訴された仲間、小池さんの判決公判。

懲役6ヶ月、執行猶予3年の不当判決下りる。

「裁判所は西成署の汚職はあったけれども抗議のやり方が度を越していたとして、小池さんの訴えにはいっさい聞く耳を持たぬという態度だった」（10.2救援会員報告）

28日、大和中央病院糾弾デモを行なう。

去年4月心臓病のため2度大和中央に運ばれた日雇いの仲間は、最初は「神経痛」、2度目は「結核」と誤診され、手当が遅れ心臓破裂で死亡。この件で地裁に提訴—裁判を準備中。（26日の大中抗議集会以、死亡した仲間の友人が報告）

朝、センターから100名の仲間が大中前に結集。「院長はわしらにあやまれ」「救急指定をやめろ」と怒りの抗議を行なった。

29日、南港臨泊の受け付け始まる。

入所369人、却下14人。翌日、入所679人、却下27人。

同日夜、集中期突入。

三角公園夜営体制に入る。人パト開始。1月3日夜まで炊き出し（夜9時と深夜の2回）

31日、夜6時、沖縄の歌と踊り。夜中、年越そば。

1月1日、越冬まつり始まる。

のど自慢大会、バンド演奏、斎藤氏・ナガハマ氏のライブコンサート

2日、団結もちつき大会。だいなしバンドのロック。

この日もちを持って南港臨泊へ80名の仲間が面会に行くも、民生局は無視。追及に対しては機動隊を導入、面会を拒否。もちも渡せずには帰らざるを得なかった。

3日、この日の人パトを最後に集中期終了、公園より撤収。

同日、日刊えっとう「号外」が出る。

内容は、支援女性の投稿記事で、1月2日、梅田地下街の人パト中に私服が隊列（の女性）にむかって「ブス、チビ」「オマエらオッサンにやらせてんのやろ。公衆便所！」と女性差別発言、性的いやがらせ（セク

ハラというべきか？）をくり返した。その女性蔑視・人権侵害は女性として許せない、というもの。

更に人パト終了後四角公園付近でその私服を見つけ、西成署前での抗議行動となる。機動隊の暴力により多くの仲間が負傷し、三角公園に撤退。

4日、例年この日の日刊えっとうは、府市に対する抗議行動（いわゆるお礼まいり）への要請が中心になるはずだが、

“痛い！ 機動隊に守られた私服ポリ公による性暴力発言を許さんぞ！”

の見出しで1月2日の梅田人パトでの女性差別発言の事実経過と、1月3日に西成署前での抗議行動の報告が紙面の大半をしめ、対市抗議デモについては、「今日対市抗議デモ・府労働部抗議行動にたち上がれ！」と、わずか1行の記載しかされていない。

まずこの事に対し、情宣班の編集方針がおかしいという批判の声が上がった。そして日刊えっとう「号外」の記事内容についても、個人の責任で出すべきような文章表現であり、「越冬実・日刊えっとう」として出したのはおかしいとの批判があった。以後、1.2のセクハラ弾圧を軸として「号外」「日刊えっとう1.4号」からいろんな問題が派生しているのだが、“性暴力発言”という表現そのものが混乱を深めているのではないだろうか？

（暴言＝乱暴な言葉あるいは言葉の暴力という表現はあっても、暴力発言という日本語はないと思うのだが）なお、1.5以降の日刊えっとうでは「女性差別発言」となっている。

6日、第21回越冬実と「警察官の暴力行為を許さへん会」が梅田で情宣活動を行なう。

この時まかれたピラにのっていたありむら潜氏の漫画に問題があり、このピラこそ女性差別だという意見が越冬実の女性グループ「わてらと釜ヶ崎」から提起された。

8日、救急隊員の態度をめぐって西成消防署・海道出張所（三角公園近く）で抗議行動。

1月3日、センター近くで血を吐いた労働者がいたので救急車を呼んだところ、隊員は「行くのか行かんのか」と横柄な態度、更には「この人は働いてへん、わしらは酔っぱらいのために働いてるんやない」と釜労働者に対し無理解、無神経な発言をくり返した。

8日、越冬実・医療班は海道出張所におしかけ、隊員の態度を糾弾したが、応対した当日の責任者は「善処します。上に相談します」とくり返すのみで、始終責任のがれの態度だった。

夜、沖縄の芝居とビデオ上映会。寄せ場と沖縄を結ぶ沖縄労働者の会主催。

11日、朝のセンター情宣をもって越冬終了。

日刊えっとう1月11日号には、昨日からキリスト教協友会の越冬活動、夜回りが始まった事、2月末までの予定で参加者を募るとの記事。

越冬終了後、2週間以上たった1月28日、“週刊えっとう”第1号が出る。

「大和中央病院の差別・殺人医療を糾弾する実行委」の発足報告と、越冬実地は2月末まで週1回医療パトを実施、週刊えっとうも週1回発行予定とあるも、1号のみで終る。

2月、越冬の総括会議が開かれる。特に問題となった女性差別発言事件をめぐることは、様々な意見があり結論めいたものは出ず。越冬実の女性（支援）達の意見をいくつか紹介すると、

「西成署前の抗議行動に立ち上がった男達が、自分の生活の中で女を差別・抑圧している状況の中心にいるという事を考えているのか。男達の運動なんて私には信じられない」という意見や、だからこそ女だけで差別糾弾斗争を行なうべきだという意見、いっしょにやろうという男達とも共に闘っていこうという意見などがあった。

又、男達の中には、「私自身女性差別者だと考えているので闘う資格はありません。……具体的にどのようにかかわるべきか見えない」（釜日労組員）とか、極端な意見として、「女性を差別している（立場にいる）俺達も私服と同じだ」（支援男性）というのもある。

私見を述べさせてもらおうと、飛田の娼婦に「公衆便所」と言っではばからない労働者も少なからずいるわけで（釜ヶ崎労働者はけっして聖人君子ではない）、そんな事は百も承知で、そんな労働者（男）が冬場死に追いやられて行くという現実があるから、越冬斗争があり、共に闘うという事なのではないのだろうか。

## 1991年

（資料が未整理で、重要な事件がぬけている可能性有り）

- 2月4日 六甲建設の手配師による暴行事件発生。  
センター付近で声をかけられた労働者が断ったところ、4人ぐらいの手配師グループになぐられた。
- 2月12日 労働者の訴えを受けて、センター内で手配師グループを追及。  
六甲建設、阪神興産の手配師が暴行を認めて、阪神興産の代表が誓約書を書いて、謝罪する。
- 2月20日 91年春斗開始。  
センター求人「業者」（約300社）に要求書提出。  
○現金求人、最低単価12500円以上とせよ。  
○飯場・契約、喰い抜きの場合は10500円以上とせよ。  
飯場代（飯代、衛生費など）2500円以下とせよ。  
○現金求人は朝飯、昼飯支給、交通費実費支給せよ。  
○3月1日より実施せよ。
- 2月25日 110「業者」が3月1日から実施を確約。  
最低単価12500円（飯代、喰い抜き10500円）以上。
- 2月27日 203「業者」が最賃要求実施を回答。
- 3月4日 新井組（西淀川）の11500円手配を追及。  
尼平線今高よりで手配中の新井組を追い返す。  
3月4日の段階で345「業者」が実施回答。  
新井組の他に、信興建設工業（東三国）、宇治工建（宇治）など約50「業者」が未回答、センター手配からトンコしている。
- 同日 大和中央病院糾弾実行委（医療連、釜日労、キリスト教関係者など）による大中に対する抗議行動が行なわれる。大中の医者による誤診により労働者が死亡した件で裁判中。
- 4月14日 ビデオ上映会「娘からの宿題——ある救急医療裁判の全記録」、大和中央病院の差別・殺人医療糾弾実行委員会主催。  
4.22 大中裁判3回目の傍聴。  
4.23 大中糾弾実による抗議集会、西成市民館。  
4.24 大中抗議デモ、三角公園より大中へ。
- 5月1日 第22回釜ヶ崎メーデー。  
詳しい資料なし。
- 5月8日 “西成騒動”（10月暴動）の発端となった贈賄事件で、暴力団員2名（山口組系）に懲役1年6月、2年の実刑判決下る。
- 5月17日 労働者派遣事業法違反で人夫出し加納建設（西成区）が摘発され、経営者ら3名が逮捕される。
- 5月21日 ドヤ「サンプラザ」がわいせつ図画公然陳列容疑で摘発され、マネージャーとフロント係が逮捕される。

客寄せに裏ビデオを放映したもの。

5月23日 西成消防署が「ホテル水都」（ドヤ、萩之茶屋1丁目）の経営者十河貞夫を告発する。  
「水都」は14年間にも渡る消防署の指導警告を無視しつづけ、消防施設設置義務を怠ってきた。

5月25日 西成署防犯コーナーの呼びかけで労働者との“親善ソフトボール大会”が津守公園で行なわれる。  
“西成騒動から7ヶ月余り、表面なごやかに”“懐柔策との声”と新聞報道。

6月14日 飛田新地の売春宿摘発される。  
大阪府警は料理店「新花世」の経営者武智昌代容疑者を売春防止法違反（場所提供）で、同店に女性を紹介していた三谷久寿雄容疑者を職業安定法違反（有害業務紹介）で、逮捕送検した。この時、女性10名（19才～36才）を保護。（毎日新聞報道）  
ときたま釜のヤクザがとばくであげられるように、飛田の売春もはでにやっているのとたたかれるようだ。

6月23日 第8回日雇全協大会。  
大会議案書は、1990年10月暴動の総括と金町戦の展望に大半がさかされている。長文であり、まとめきれないので……。

6月29日 手帳金融業者摘発される。  
「吉富商事」「西成クレジット」「ワールド」の責任者ら3名が出資法違反で逮捕される。1日あたりの法定利息（0.15%）の12倍の1.8%で貸し付けてボロもうけしていた。

8月10日 10日、11日と夏祭り資金カンパ活動、約110万円集まる。  
12日、第20回夏祭り前夜祭。  
映画「山谷ーやられたらやりかえせ」上映。  
この日からパネル展示始まる。  
○医療連 ○大中糾弾実 ○寄場詩人  
○泉州沖に空港をつくらせない住民連絡会  
○金さんの油絵 ○釜日労（10月暴動写真）など。  
13日、土方人生山あり谷あり（一輪車競技）、のど自慢、三門博若氏の河内音頭。  
14日、ロックバンド、スイカ割り、つな引き、曾野恵子さんの歌。  
15日、相撲大会、叶麗子さんの歌、慰霊祭、沖縄太鼓、花火大会。  
3日間通じて、炭鉾節など盆踊り。  
夜店は医療連、こどもの里、わて釜、四ツ葉牛乳、だるまの会、沖縄物産店など多数。

8月13日 西成署、「あいりん白書30年特集」発行。（朝日新聞より）  
現在の釜の推定労働者人口21000人。あぶれ手当（6500円）の昨年の延べ受給者は61500人で前年より約16300人減少。新空港建設などの公共の反映としている。  
（暴動については一部労働者の扇動が主原因としている。）

8月29日 大久（<sup>オキ</sup>）組斗争。  
泉南の大久組は暴力常習飯場として有名だが、6月、親父と息子が労働者に暴力をふるい大怪我をさせるといふ事件がおきた。  
親父に朝「印紙を貼ってくれ」と言ったところ、「このクソ忙しい時に」といきなり首を締められ、続いて息子がどつきかかったというひどい話だ。半殺しの目にあい、脳外科に通院中の労働者は西成労働センターに相談。センターは“労災事故の示談金”として20万円を支払わせるが、親父は「あとはどこでも訴えろ」と居直り、中途半端な“仲介”で終る。  
29日朝、求人に来ていた息子を捕捉し、センターに直行。センター情宣の後、バスで飯場へ直行。最初親父は居直り、泉佐野署の介入もあつて、争議は長引いたが、「泉州沖に空港をつくらせない住民連絡会」の小山議員の協力を得て、その日の内に治療費、休業補償などを確約させた。

9月11日 暴動の発端となった収賄警官に懲役3年の実刑判決下る。  
西成署刑事課捜査四係の元巡査長、芳賀勉は、ノミ行為を見逃す見返りに1200万円のワイロを受け取っていた。追徴金1121万余円。

9月19日 日向土木（姫路）との団体交渉。  
西成市民館でオヤジを追及。  
9月9日、日向土木のオヤジと息子は、「酒グセが悪い」「目つきが悪い」などといんねんをつけて、一方的に労働者2人をどつき、重傷をおわせた。  
（団交の結果については資料なし）

10月17日 大中差別医療裁判7回目公判。  
10月24日 大中糾弾実などが、「大阪府に対して大和中央病院の救急指定取消を求める」署名個人2000名分、団体署名17を府に提出する。  
12月24日 大中前で抗議行動。



## 第22回越冬(91~92)

いわゆる“バブル経済”の崩壊が始まり、8月頃から急激に仕事が減少する。センターの統計によれば、現金求人は、3ヶ月連続落ち込み、10月136,544人(1日平均4,405人)、前年比約2割減、飯場求人は10月112,875人、前年比約3割減までに後退。数年来の好況下の越冬から一転して不況下の越冬となる。

(1991年)11月30日~12月1日

冬期一時金(モチ代)支給日にカンパ活動。両日で897860円集まる。

12月14日、越冬支援連帯集会。(総合福祉センター)

基調提起

- 10月釜暴動の地平を打ち固め、越冬を闘おう!
  - 国策動員=「労務報国会」と対決せよ!
  - 日雇使い捨て、野宿、野垂れ死を許すな!
  - 外国人労働者の排撃を許すな!
- など。

24日、「日刊えつとう」創刊号発行。布団小屋設営、布団搬入、各班準備作業。

この年から例年炊事場所として利用していたセンター住宅12Fが使えなくなり、木原マンションでの炊事を計画するも、大家の妨害で規模を縮小。炊き出しは、木原、三角公園、医療センター前と、3ヶ所に分散。又この日、大中糾弾実による大和中央病院抗議行動。1989年4月の誤診による労働者死亡事件(裁判中)のセンター情宣と同時に「救急指定取消し」署名活動。

26日、築港、全港湾本部前、モチ代支給時にカンパ活動、14783円集まる。

この夜の医療パトでは、272名の野宿者が確認される(昨年同月同日の2倍)。

29日、臨泊押し込み斗争。

市更相の受け付け848件。内南港臨泊へは640名入所。却下73名。

30日、受け付け428名、入所301名、却下33名。

29日夜より集中期。

三角公園で夜営体制。炊き出しテント小屋設営。たき火を囲んで野宿体制をとる。又、人民パトロールも開始される。

29日、釜地区内

30日、天王寺地下、JR中央コンコース

31日、難波

1月1日、日本橋、通天閣

2日、梅田地下、阪急梅田、JR大阪駅

3日、釜地区内

31日、越冬まつり始まる。

“だまってないで92(?)がえそう”

31日夜、年忘れのど自慢大会。

1月1日、衣類放出、ピンポン大会。

ウォークラリー(釜地区を見て歩く)。

夜、ロックバンド演奏。

けんぞう、仙石、ポップコーン、フーの会、生活サーカス団など。

2日、もちつき大会。

“だいなし”によるロックコンサート。

3日、ペーパーベースボール大会。

夜、みずほさん、新谷のり子さん、新井さんのジョイントコンサート。

1月4日、大阪市に対する抗議デモ。

三角公園→境筋北上→市庁へ。

1月5日、医療班の病院訪問と面会活動。

結核病院の広崎(阪南町)と神田(和歌山)へ、他に豊川、放出、貝塚中央、貝塚サナトリウム、大中、杏林記念、山本第一、富永脳外科。

7日、ブッシュ(アメリカ大統領)来阪反対抗議デモ。

三角公園→難波へ。

8日、越冬終了。

22回越冬の反省点として

○各班との相互の連携「今どこで何を誰と誰がしているのかとか、釜日労の事務所体制、支援の仲間への連絡」というような基本的な実行委の各班体制がみえない。(炊事班より)

○人民パトの闘いが固定化、スケジュール化の事態へと後退している。(警備班より) など。

越冬体制が班編成によって専門分野化し、全体的方針が明確にされないまま、スケジュール斗争へと進んでしまった感じがする。

1992年

(資料が未整理で、重要な事件がぬけている可能性有り)

- 2月末 センターだよりより、有効求職者数(手帳所持者)13420人。  
 2月~3月 釜ヶ崎春斗。  
 現金13000円以上、契約13000円(飯代2800円以内)  
 今年の春斗については当方に資料なし。春斗結果はほぼ要求貫徹。  
 3月19日 西成署による暴行を受け、慰謝料など120万の損害賠償を求めた訴訟で、被害者、部落解放同盟矢田支部代表幹事の西岡氏に対し、「署員の違法行為があった」と認め、大阪府に約13万円を支払うよう判決。(2審の大阪高裁では控訴棄却)  
 4月10日 新聞報道  
 「日雇特例被保険者受給資格者票」(日雇健保)が「健康保険被保険者受給資格者票」となる。  
 「日雇」の文字で、家族の肩身が狭いという要望に厚生省が応えたとあるが……。  
 4月23日 大中糾弾集会。(西成市民館)  
 5月より あいりん職安、土曜閉庁。  
 6月22日 大中裁判第11回公判。  
 6月28日 第9回日雇全協大会。(横浜・神奈川県勤労会館)  
 7月3日 人夫出し「林建設」の求人車が放火される。  
 運転手と手配師がやけどを負う。  
 後日、顔付け求人によるトラブルで、労働者が反撃した事件と判明。逮捕された労働者を支援する救援会が出来る。  
 7月11日 「釜ヶ崎高齢日雇労働者の仕事を勝ちとる会」発足。  
 三角公園で炊き出し開始。以後、毎週土曜炊き出しを行う。  
 7月23日 反失業斗争開始。  
 ○特別就労対策事業(特出し)を行え!  
 ○高齢、病弱者、「障害者」への特別就労対策事業を行え!  
 など、あいりん職安に要求書提出行動を開始。  
 同時に、医療センター前で野営陣地を確立。センター情宣、炊き出し、人パト(夜10時)の24時間体制をめざす。  
 7月27日 あいりん職安では、16名の私服を後盾にして、足立(課長?)が要求書の受け取りを拒否。  
 西成労働福祉センターでは、阪上(総務課長)が「うちは民間団体だから受け取れない」と拒否。  
 8月より 玉出社会保険事務所、土曜閉庁開始。  
 8月1日 ソーメン代(13800円)支給時に夏祭りカンパを行なう。  
 8月4日 労働福祉センターとの団交をかちとる。  
 約100人の仲間が押しかけ、団交に参加。

青木理事、渡辺事務次長、佐藤紹介課長、橋本福祉課長の4名が対応し、

- 6月に行った高齢者アンケート調査集約結果を今月末までに発表する。
  - 高齢者就労窓口の設置を府労働部に要望すると確約する。
- 8月12~15日 第21回夏祭り前夜祭。  
 ○歌って踊ってアブレ地獄をぶっとばせ!  
 ○若い衆も年寄り衆も釜ヶ崎で連帯し、仲間みんなで解放だ!  
 12日、前夜祭、映画と炊き出し。  
 13日、スイカ割り、のど自慢、三門博若氏の河内音頭。  
 14日、つな引き、ロックバンド、新谷のり子さんの歌、すもう大会。  
 15日、曾根恵子さんの演歌、慰霊祭、打ち上げ花火大会。  
 (3日間通じて、炭鉾節など盆踊り。)
- 8月14日 朝、職安窓口への押しかけ斗争。  
 職員が仲間に暴力をふるう。
- 8月22日 府労働部斗争決起集会。  
 三角公園(夜6時半)に約500名が参加。
- 8月25日 仕事よこせデモ。  
 労働部へ要求書提出行動。  
 ○高齢者の失業対策を行え!  
 ○日雇労働者の失業対策を行え!  
 ○白手帳のしめつけをやめ、アブレ受給条件を緩和せよ!  
 ○野宿者対策を行え!  
 など。  
 当日3名が不当逮捕されるが、27日釈放される。  
 更に、6時間の座り込みを貫き要求書を受けとらせる。
- 9月1日 林建設求人車放火事件第1回公判。  
 「勝利号」を地裁へ。  
 “釜労働者和田さんへの殺人未遂攻撃を打ちくたせよう”
- 9月7日 要求書に対する府労働部の回答日、約100人の仲間が労働部前に結集、座り込む。  
 労働部の応接条件は  
 ①代表者5人  
 ②時間 1時間  
 ③要求項目は現地機関で解決できる問題ではないから、今後現地機関に迷惑をかける事

(話し合う前からやる気のない事を暴露している)

④国民会議、住友生命ビルに迷惑をかける  
 ⑥代表者以外はビルに入らない  
 ⑥代表者以外は周辺から引き上げる

で、③④⑤の条件の撤回をめざし、7、8、9、10の4日間座り込み貫徹。

9月10日 11時より③④⑤の条件は保留のまま、労働部と交渉開始。  
 「高齢者対策については、実態を調査し、2月の府議会をメドに青写真を出して行きたい。」と明言。  
 この間の斗いの成果として確認、座り込みを解除。

9月17日 医療連ニュース、7月23日～9月10日の医療センター前机出し医療相談の記録。  
 ○相談者平均年齢 54.7才  
 ○野宿率 85.5%  
 ○白手帳所持率 17.7%

9月21日 医療センター前障地より、市更相押しかけ斗争が本格化。  
 生活相談窓口に並んだ111名が「貸し付け金」という名目で緊急失業対策費(2000円～1000円)を受け取る。

9月24日 市更相で約600名の仲間が失業対策の生活費(2000円)を勝ち取る。  
 釜日労は、貸金制度ではなく、失業対策の窓口設置、ドヤ券・食券を出せと要求。

同日 約700名の仲間が失業対策費(1500円)を受け取る。

9月25日 712名が生活相談窓口にならび、ほとんどの仲間が1000～1500円の貸金を受ける。

9月26日 858名の仲間が相談窓口には押しかけ、失業対策費＝貸金給付を受ける。  
 当日の夕刊に「援護貸金に労働者殺到」と報道される。(朝日など)

9月27日 市更相は、「貸金制度の資金は底をついた」として相談窓口閉鎖をもくろむ。

9月29日 市更相所長、高階(たかぎ)との交渉。  
 ○ドヤ券・食券支給  
 ○無料宿泊所設置  
 ○低家賃住宅建設  
 の政策要求には答えられない、と回答拒否。  
 更に、30日をもって緊急相談窓口を閉鎖すると通告。  
 市更相の居直りに対し、市更相包囲斗争を訴える。

9月30日 市更相は、「21日より開始した緊急貸金を30日をもって終了」と張り紙、10月から市民生局の本庁職員を一齐に引き上げ、窓口相談は貸金窓口での「本来業務」にもどすと宣言。  
 1142名の大半が最後の貸金(1000円)を受け取る。

10月1日 反失業暴動始まる。  
 午前11時、市更相は一方的に玄関を閉鎖。労働者らの投石が始まり、午後3時、市更相職員が全員トンコ。市更相周辺から暴動が拡大。付近の自転車、オートバイ数十台が次々燃され、阪堺電軌の警報器が壊されたため、9時半から住吉一恵美須町間がストップ。  
 2日未明になっても約300名の仲間が投石、自動車放火とゲリラ活動をくり返す。

10月2日 暴動2日目。  
 市更相は通常通り、午前9時窓口を開ける。応急援護金をめぐる労働者の追及に再び玄関を閉鎖。西成署が介入し、市更相の建物や、通行する車に投石が始まる。労働者6名不当逮捕される。  
 一方センター前では、仕事よこせと人夫出しの求人バスにつめより、投石騒ぎとなる。  
 新今宮駅前尼平線では、自転車を積み上げて放火。バリケードを築き、一時的に「解放区」をつくり出す。

10月3日 釜日労、朝ピラ。  
 ○「窓口再開」のペテンをもったの暴動鎮圧と斗おう!  
 ○民生局長香山、福祉部長門脇は窓口閉鎖、職員トンコ事件の謝罪をせよ!  
 朝、センター前で釜日労組合員1名が不当逮捕される。  
 夕刻、市更相前に約1000人の労働者が集結、車への投石、自転車をバリケードにし放火。  
 反乱は深夜まで続き、約200名が動物園前商店街へ移動、南海天王寺支線を占拠。普通電車5本が運休。

10月4日 夜6時より、反失業斗争集会。(三角公園)  
 生活・仕事保障を訴えると同時に、暴動の逮捕者12名の釈放を要求。

10月5日 暴動収束後も、市更相押しかけ斗争は続く。  
 この日、副所長は、「60歳以上の労働者は自強館、三徳寮、天六寮などの施設に入所させる」と約束するも、わずか12名だけが入所できただけ。

10月7日 釜ヶ崎救援ニュース第1号発行。(釜ヶ崎・顔づけ一暴行に反対する抗議事件救援会)

## 第23回越冬(92~93)

- 林建設の手配師による顔付け求人手配によるトラブル、手配師の暴行に抗議し、放火・糾弾決起を行なった和田さん。彼を支える諸個人、諸団体がパンフレットを出す。
- 10月10日 新聞報道、「求人半分以下」。  
西成労働福祉センターの求人は激減し、4月～9月の6ヶ月間の減少率は過去最低で、前年同期比 41.6%。  
8月の求人数は2500人。
- 10月12日 対民生局斗争。  
150名の仲間参加、デモの最中1名が不当逮捕される。  
民生局あてに要求書提出。  
○ドヤ券・食券を支給せよ！  
○無料宿泊所を地区内につくれ！  
○低家賃高令者住宅をつくれ！  
○市発注公共事業に釜労働者をやとえ！  
10月17日までに回答せよ！
- 10月23日 市の回答、  
「越年対策（毎年200名を自彊館に収容）を前倒して実施、その規模を拡大する」というもの。  
「組合はほとんどゼロに近い回答」とし、さらに失業・野宿対策を追及、斗争継続を確認。
- 11月2日 この日から、民生局の巡回相談が始まる。  
月・水・金の週3回、民生局役人と自彊館の職員が釜地区内を巡回し、野宿している仲間を自彊館に入所させる。（来年1月まで）  
1回の入所者数約20人と少ない数字だが、市の役人が直接釜に来て、アオカン対策を実行するという事は、画期的な事だと思う。
- 11月5日 医療センター前で医療相談。（釜医療連）
- 11月19日 医療相談。
- 12月3日 医療相談。
- 12月6日 10月3日、暴動の時不当逮捕され、西成署内で暴行を受けた労働者（山谷で争議団の支援として活動）の支援組織、「西成署の暴行を明らかにする連絡会」が結成される。  
連絡会ニュース創刊号発行。  
翌日（7日）、国家賠償法に基づき大阪地裁に提訴。

- (1992年) 12月5日、6日、モチ代（冬期一時金）支給時にカンパ活動。
- 12月12日、越冬支援連帯集会。（芦原橋・部落解放センター）  
7月から始まった反失業斗争との連続性、「越冬期の反失業斗争」という側面が強調され、越冬斗争を通じ、「反失業斗争の長期持久体制を支える共同布陣の強化」が提起される。
- 19日、反失業・府労働部斗争決起集会。三角公園。
- 21日、府に要求書提出行動。デモに約100人が参加。  
○府発注の公共事業に釜労働者を雇え！  
○高令者対策として軽作業就労を保障せよ！  
○単身者用低家賃住宅をつくれ！  
○白手帳のアブレ支給条件を緩和せよ！
- 25日、朝から医療センター前拠点設営。  
昼は三角公園で、越冬実と「勝ちとる会」の連携で炊き出し。  
夜、越冬突入集会。  
集会終了後、医療センター前に移動、布団敷きの後、医療パトロール。
- 26日、日刊えっとう第2号発行。「寄せ場考」連載始まる。（寄せ場の歴史的考察）  
この日から医療班による連続医療相談。（日曜は休み）
- 29日～30日、南港臨泊押し込み斗争。  
1503名が受け付けに並び、1139名が入所。159名が、年が若いなどと不当な理由をならべたてて却下される。
- 29日夜、集中期突入。三角公園で夜営体制へ。
- 31日、大和中央病院前で労働者が凍死した事件で、事実確認と抗議行動。  
29日、救急車で大中へ行った労働者が酔っている事を理由に追い出され、職員は大中前路上で倒れたのを見ているながら翌30日朝まで放置、結果として見殺しした事がわかった。
- 同日夜、越冬まつり始まる。（三角公園）  
年忘れのど自慢大会。曾根恵子ショー。  
○スローガン「不況波におぼれる事なくリズムタッチで93(く)出そうぜ」
- 1月1日、体をほぐそう会。卓球、ドッチボール。その後若者ライブ。  
2日、もちつき大会。（ついたもちは南港臨泊へも持って行った）  
後、若者ライブ。（けんぞう、仙石バンド、だいなし、生活サーカス）
- 3日、ソフトボール大会。（越冬まつり終り）
- 1月4日、反失業斗争決起集会。約300名が参加。
- 5日、大阪市糾弾行動。130名の仲間がデモで市に押しかける。  
5名の代表が1時間の話し合いを持つが、内容は門前払いに等しい。

7日、南港臨泊が打ち切られ、多くの仲間が釜へ戻ってくる。(自彊館は11日まで延長された)

8日、朝ワッショイデモで市更相へ。

終日、施設入所斗争を貫徹。これに対し、市更相は医療券を乱発し、又は「まだ若い」「酒を飲んでいる」を口実にして門前払いをくり返した。しかし、1階ロビーにゴザを敷いて座り込み再面談を要求。66才以上の高令者についてはほぼ全員(約80名)の入所をかちとる。自彊館、三徳寮、天六寮など。

9日、昨日に続き50名が市更相に押しかける。

11日、この日の朝、医療センター前での医療相談を最後に越冬は終了。

このあとは医療連として毎月第1、第3木曜に実施予定。

又、反失業斗争拠点としての医療センター前陣地は維持され、市更相押しかけ斗争は続く。

今越冬では、私は資材班の責任者として、連日マクラ木と格闘していたので、全体の動向はまともに見えなかった。

総括会議ではいろんな問題が指摘されたと思われるが、越冬終了後、私は北陸の飯場へ入ったので、不明。

ともあれ、第1回(1970冬)から第23回(1992)までざっと紹介して、とりあえず終り。

こんな事をして何になるのかと思いながらも、小冊子発行に10万円もつぎこむ事となった。

10万あれば住之江で何回勝負できるか、酒が何杯飲めるか、しかし、人は酒とバクチのみにて生きるにあらずか。よく考えてみると、個人的帰結ではない。90、92年と続いた暴動がそれを示している。労働者一人一人のエネルギーは、今の私が感じているものと同じところから来ているに違いない。暴動写真集を出す人がいれば、写真の1枚に、「人は酒とバクチのみにて生きるにあらず」と書いてもらいたい。ともあれ、酒で脳ミソがとける前に1冊の本を出せた事。「夕べに死すとも可なり」の心境か。

1985年8月 ⑤